

2011 年度後期学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント —経済学研究科—

経済学研究科長 木村周市朗

アンケート調査に対する大学院学生諸君の協力に感謝します。

2011 年度後期の大学院全体の集計結果は、前期と同様に、どの項目についてもおおむね高い評価を得られたものと判断いたします。

平均値の高い諸項目からみて、今期においても、一般に、教員は「授業時間を有効に利用」して「授業への熱意」を示し、「総合的に」高く評価できる授業内容であったと学生諸君が感じていたことが窺われます。これは、徹底した少人数制の授業の成果であるといっ
てよいでしょう。

全体としての高い評価の中で、今後の課題として留意される点は、前期と同様に、予習・復習を「よくした」とは思っていない学生や、授業のレベルが自分にとって「適切であった」とは思っていない学生が少数ながら存在したことです。これらについては、教員の側の授業の工夫と、学生の履修に際してのモチベーションとの両面で、なお改善の余地があると思われ
ます。

また、「休講または教員の遅刻が多かった」と思った学生が少数ながら存在した点は、教員として反省すべき事項です。

こうした点を踏まえ、今後も大学院担当教員全員が不断の努力を重ねて、履修者の学修意欲に十分応え、また一層意欲を喚起するような授業展開を図ることが期待されます。